



令和7年第2回 油川中学校区運営協議会 CSD報告

令和7年9月25日(木)

CSD 柿崎 孝治

みなとまち・あおもりは、2025年をもって、開港400年、そして、2026年には、まちづくり400年の大きな節目を迎えました



油川駅郵便局周辺 7月19日(土) 油川駅応援実行委員会と美化活動

7月19日(土)午前10時から午前10時40分まで熱中症対策しながら実施(活動を20分短縮)

みなとまち・あおもりは、2025年をもって、開港400年、そして、2026年には、まちづくり400年の大きな節目を迎えました

油川駅郵便局と周辺の美化活動ボランティア



油川中生へボランティアの激励に津島代議士が来てくれました。
環境問題になっているマイクロプラスチック種類や人体への影響・問題と
対策についてミニ講話をしてくださいました。

ホーム花壇の水やり、ホーム下の芝桜花壇の水やり雑草とり、駅周辺のゴミ拾い、雑草刈り取りの回収など実施



油川駅応援実行委員会と油川中学生19名、津島淳代議員も協力をしてくださいました





夏休み後 8月25日(月) 油川中学校前交差点見守りで感じたこと

みなとまち・あおもりは、2025年をもって、開港400年、そして、2026年には、まちづくり400年の大きな節目を迎えました

夏休みが終わってからのことになります！

市内小中学校において初めて実施する「ゆるやかスタートウィーク」、短縮して「ゆるスタ」と呼んでいるようですが。この「ゆるスタ」について一言。

私は、油川中学校前横断歩道において月曜日に見守り活動を行っています。8月25日(月)、夏休み明けの小学校低学年の子供たちは「どんより」としてあまり顔色が良くありませんでした。6年生は修学旅行が待ち遠しく、ウキウキ状態。様子見で水曜日まで見守りを続けることにしました。月曜日には午前授業、そして今週は午前授業給食を食べて帰ることを理解したようで、火曜日、水曜日と日を追うごとに元気になり、水曜日には楽しそうに学校に向かっていきました。

「ゆるスタ」のほかに給食も「元気もりもりウィーク」というのがあり、人気メニューが出ることもその原因の一つかもしれません。

「ゆるスタ」の目的は、児童生徒の自殺対策、不登校対策、熱中症対策とともに、教職員の働き方改革も兼ねていると聞きました。この県内初の取り組み、全国でも珍しい取り組みではないかと思いますが、児童生徒のために、ぜひとも冬休みにも実施していただきたいとお願い致します。



かかしフェスタ 9月20日(土) 油中生オープニングセレモニー企画・運営

みなとまち・あおもりは、2025年をもって、開港400年、そして、2026年には、まちづくり400年の大きな節目を迎えました

「かかしフェスタ de Aburakawa」 オープニングセレモニー

油川中学生が企画・司会を担当



令和7年9月20日(土) 午前11時スタート



かかしを制作したチームの代表がそれぞれかかしの見どころや制作の苦労話など説明しました



油川獅子舞保存会&油川中学校獅子舞チーム



油川獅子舞保存会 & 油川中学校獅子舞チーム 動画



第1回「かかしフェスタ de Aburakawa」無事終了





「かかしフェスタ de Aburakawa」 かかしの展示

- ・青森放送
- ・青森テレビ
- ・東奥日報
- ・読売新聞
- ・青森朝日放送

取材・報道していただきました！

みなとまち・あおもりは、2025年をもって、開港400年、そして、2026年には、まちづくり400年の大きな節目を迎えました

Web東奥9月21日(日)掲載画像



野木和公園入口付近 油川小学校・油川市民センター児童室作品



5年生の俳句かかしはシンボルかかしがあった「かかし広場」で展示しています

JAあすなろ本店入口付近 油川中学校生徒作品





油川小学校3年生 9月30日(火) 油川獅子舞保存会&油中生獅子舞チームへ出前授業

みなとまち・あおもりは、2025年をもって、開港400年、そして、2026年には、まちづくり400年の大きな節目を迎えました

9月30日(火)油川小学校3年生に、 油川獅子舞保存会「出前授業」油川中学校獅子舞チームも協力

ATVが取材 2023年7月7日(金)
このニュースが放送されてから会員が・・・。





未来ミーティング 8月23日(土) 青森市からの回答



みなとまち・あおもりは、2025年をもって、開港400年、そして、2026年には、まちづくり400年の大きな節目を迎えました

青森港 油川地区 工事

航空写真は令和6年10月時点のものです。

木材港・油川埠頭は、

平成8年度まで雪捨て場として利用できます

雪捨て場

- ◆工事名 : 令和6年度青森港油川地区岸壁(-12m)護岸撤去工事
- ◆施工業者 : 東亜・大本特定建設工事共同企業体
- ◆工事期間 : 令和6年10月11日～令和7年11月28日
- ◆工事内容 : 既設護岸の破碎・撤去を実施しています。
また、破碎した護岸がらを陸揚げし、分別・処分しています。
- ◆進捗状況 : 72.0% (令和7年7月末時点)



既設護岸の破碎・撤去の様子



撤去した護岸がらの陸揚げの様子



陸揚げされた護岸がら分別の様子





旧油川配水所関係 青森市水道部からの回答

みなとまち・あおもりは、2025年をもって、開港400年、そして、2026年には、まちづくり400年の大きな節目を迎えました

旧油川配水所の解体スケジュール等について

1 解体工事について (当初予定)

油川配水所は、老朽化の進行と人口減少に伴う水需要の低迷から、令和2年6月30日をもって廃止し、令和3年度から解体工事に着手しました。
解体工事の当初の予定は、下記のとおりでありました。

- ・令和3年度 管理棟などのアスベスト除去工事、2号取水井埋め戻し工事
- ・令和4年度 鉄筋コンクリート造の配水池2池の解体工事
- ・令和5年度 同上配水池基礎杭撤去工事
- ・令和6～8年度 着水棟、管理棟、外構等の解体工事
- ・令和9年度以降 各取水井の埋め戻し（解体）工事

(現在の状況と今後の予定)

令和4年度までは予定どおりに実施しましたが、当時、油川配水所の水源として運用していた5か所の取水井において、当該配水所廃止後から地下水が自噴するようになり、その自噴水が越水した場合、隣接する水田への影響が懸念されたことから、まずは既存の用水路への流出を防止するため、各取水井の埋め戻し工事を優先して実施し、その後に旧油川配水所の管理棟などの本体の解体工事に取り掛かることとしました。

- ・令和3年度 管理棟などのアスベスト除去工事、2号取水井埋め戻し工事【実施済】

跡地利用について、桜の木について、ブロック塀について

2 跡地利用について

現段階で解体後の跡地の取扱いについては未定であります。解体まで一定の年数を要することもあり、今後の具体的な検討を進めていく中で、地域住民の皆様へ説明等を行っていくこととしています。

3 桜の木について

樹木医の診断によると、すべての桜に樹勢の衰退が見られ、移植にも耐えられず枯死してしまう状態であるとのことであったため、旧油川配水所の解体工事に合わせて、伐採する予定としています。※特に倒木の危険性が高いものについては随時伐採する予定です。

4 ブロック塀について

昨冬の豪雪により、旧油川配水所を囲んでいるブロック塀に部分的な破損等の不具合が確認されたため応急処置を実施します。

5 フェンス際の草刈について

5月28日～29日に対応済です。

当初令和2年度の予定

(当初予定)

油川配水所は、老朽化の進行と人口減少に伴う水需要の低迷から、令和2年6月30日をもって廃止し、令和3年度から解体工事に着手しました。
解体工事の当初の予定は、下記のとおりでありました。

- ・令和3年度 管理棟などのアスベスト除去工事、2号取水井埋め戻し工事
- ・令和4年度 鉄筋コンクリート造の配水池2池の解体工事
- ・令和5年度 同上配水池基礎杭撤去工事
- ・令和6～8年度 着水棟、管理棟、外構等の解体工事
- ・令和9年度以降 各取水井の埋め戻し（解体）工事

令和7年度6月までの状況と今後予定

(現在の状況と今後の予定)

令和4年度までは予定どおりに実施しましたが、当時、油川配水所の水源として運用していた5か所の取水井において、当該配水所廃止後から地下水が自噴するようになり、その自噴水が越水した場合、隣接する水田への影響が懸念されたことから、まずは既存の用水路への流出を防止するため、各取水井の埋め戻し工事を優先して実施し、その後に旧油川配水所の管理棟などの本体の解体工事に取り掛かることとしました。

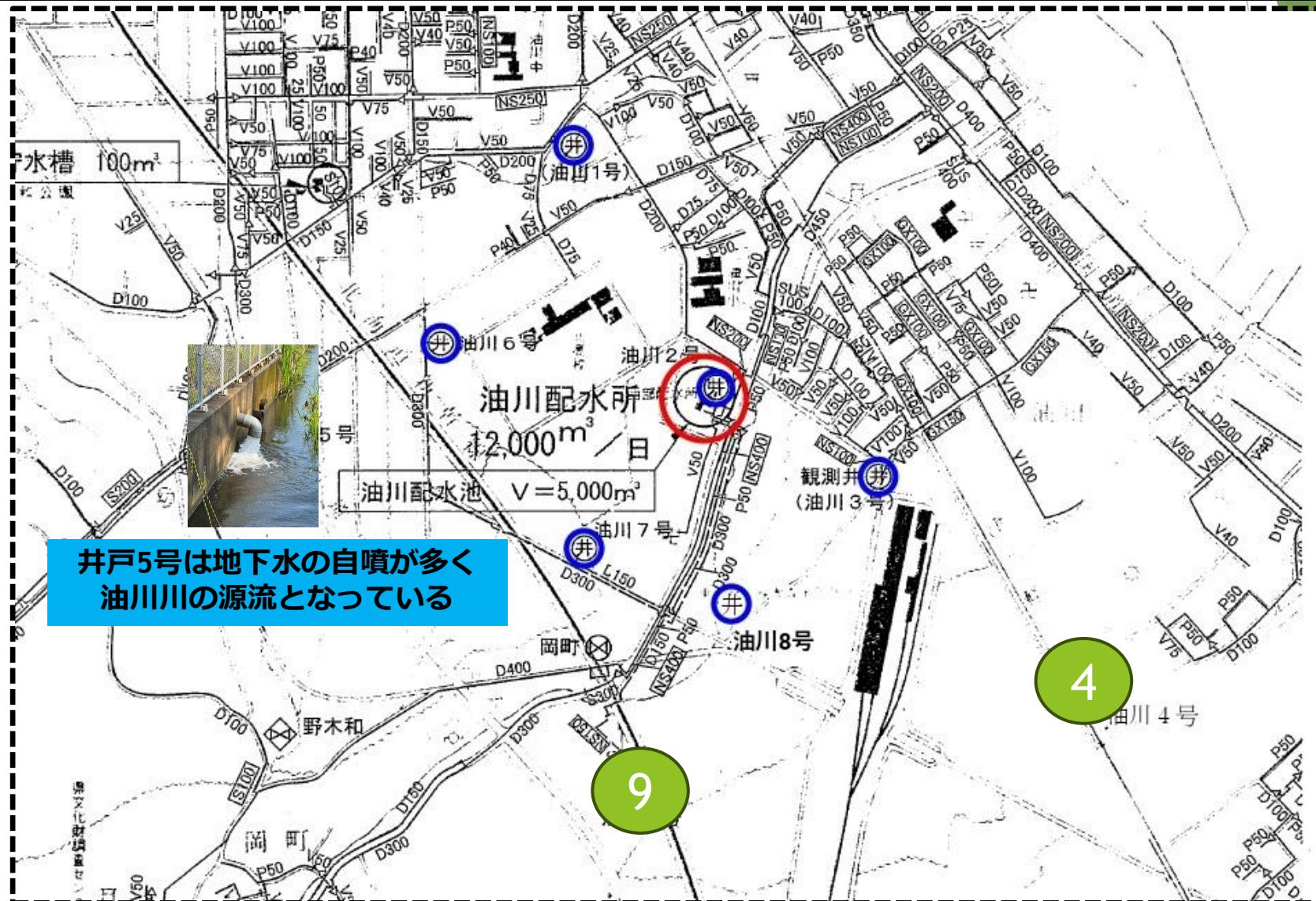
- ・令和3年度 管理棟などのアスベスト除去工事、2号取水井埋め戻し工事【実施済】
- ・令和4年度 鉄筋コンクリート造の配水池2池の解体工事【実施済】
- ・令和5年度 7号取水井埋め戻し工事【実施済】
- ・令和6年度 6号取水井埋め戻し工事【実施済】
- ・令和7～9年度 5、9、4号取水井埋め戻し工事
- ・令和10年度以降 配水池基礎杭撤去工事、着水棟、管理棟、外構等の解体工事

油川配水所・取水井戸 位置図

令和7年度6月での状況と今後予定



- ・令和6年度 6号取水井埋め戻し工事【実施済】
- ・令和7～9年度 5、**9**、**4**号取水井埋め戻し工事
- ・令和10年度以降 配水池基礎杭撤去工事、着水棟、管理棟、外構等の解体工事



現在の問題点と要望

当初の予定より旧油川配水所本体の解体が遅れることが分かった。今後も長期間、旧油川配水所の囲い（フェンス）はそのままの設置だと不快である。一旦取り外して見通しを良くしてほしい。旧油川配水所が解体する時設置することを希望する。

水道部では様々な方策やその費用などについて検討を進めているところです。



ブロック塀来年度解体を検討中

これから起こりうる問題点と要望

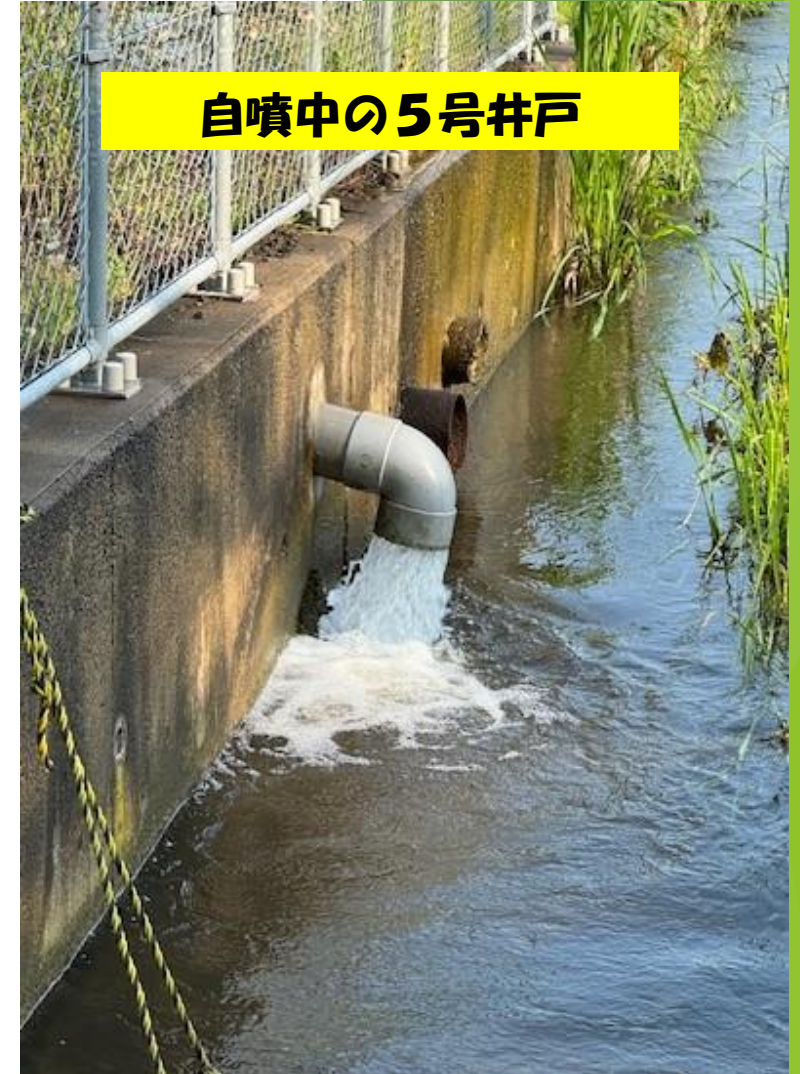
シンボルかかしを展示していた向い側



以前から井戸5号は地下水の自噴が多く年間を通して油川川の源流となっている。地域に住民に周知せず埋め戻し(自噴を止める)を行うと**油川川の水が枯れた状態となり下流の住民に支障が起こる**ことが考えられる。

自噴場所や橋があるところに説明等案内板を設置、更に油川の住民にあらかじめ回覧板等利用して埋め戻し(自噴を止める)をする期日を告知することを希望する。

自噴中の5号井戸





その他 油川に関係したこと

みなとまち・あおもりは、2025年をもって、開港400年、そして、2026年には、まちづくり400年の大きな節目を迎えました

油川で森山弥七郎・奥瀬氏墓前祭 青森開港400年 先人に発展誓う



開港400年 先人に発展誓う



森山弥七郎の供養碑の前に、手を合わせる参列者

油川で森山弥七郎・奥瀬氏墓前祭

浄満寺の境内には、市指定文化財「森山弥七郎供養碑」と奥瀬氏一族の墓と、戦国時代に油川城主として善政を敷いた奥瀬氏一族の遺徳をしのぶ「墓前祭」が3日、青森市油川大浜の浄満寺で行われた。今年は開港400年の節目。地元住民ら参列者約30人は、港町発展の礎を築いた先人たちに思いをこめて、地域のさらなる活性化を誓った。

青森

江戸時代に青森開港に尽力した森山弥七郎と、戦国時代に油川城主として善政を敷いた奥瀬氏一族の遺徳をしのぶ「墓前祭」が3日、青森市油川大浜の浄満寺で行われた。今年は開港400年の節目。地元住民ら参列者約30人は、港町発展の礎を築いた先人たちに思いをこめて、地域のさらなる活性化を誓った。

(工藤慎子)

浄満寺の境内には、市指定文化財「森山弥七郎供養碑」と奥瀬氏一族の墓と、戦国時代に油川城主として善政を敷いた奥瀬氏一族の遺徳をしのぶ「墓前祭」が3日、青森市油川大浜の浄満寺で行われた。今年は開港400年の節目。地元住民ら参列者約30人は、港町発展の礎を築いた先人たちに思いをこめて、地域のさらなる活性化を誓った。

2025年8月11日(月) 東奥日報朝刊掲載記事

みなとまち・あおり誕生 400 年 歴史ガイド

青森の町づくりと森山弥七郎

みなとまち・あおり誕生 400 年実行委員会(問合せ先:青森市経済部交流推進課 TEL:017-734-5415)

青森の町づくり

青森の町づくりは、1625(寛永2)年5月15日、弘前藩第2代藩主津軽信枚(のぶひら)が、江戸幕府から津軽と江戸間の廻船就航の許可を得たことがきっかけとなり(青森開港とされています)、翌年、家臣の森山弥七郎らによって始まりました。

また、1626(寛永3)年4月6日、弘前藩は3か条からなる町づくりの基本方針を示しました。

基本方針の第1か条目は「青森への人寄せ(移住促進)」、第2か条目は商人船の取引地規制(売買は青森1か所)、第3か条目は町人の身分規定(弘前町人に準ずる)となっています。

このとき、第1か条目は、油川・浄満寺(じょうまんじ)に供養碑(青森市指定文化財)がある森山弥七郎に信枚から下命されています。

ちなみに、「青森」という地名は、森山弥七郎の進言により、信枚によって命名されたと言われています。

森山弥七郎供養碑

油川・浄満寺にある「森山弥七郎供養碑」は、港町青森の建設に尽力した元祖(初代)森山弥七郎を供養するために建てられたものとされています。

油川・浄満寺では毎年8月3日に墓前祭が行われており、森山弥七郎と戦国時代に油川城主であった奥瀬一族の遺徳をしのび、まもなく迎える青森開港400年に向け、港町青森の発展の礎を築いた先人に感謝の意が込められています。



東奥日報社提供(令和6年8月14日掲載)



津軽信枚画像(高野山善照寺蔵)



津軽信枚が森山弥七郎に青森への人寄せを命じた黒印状の写(弘前市立弘前図書館蔵)



青森市指定文化財「森山弥七郎供養碑」(油川・浄満寺)





ご清聴ありがとうございました

みなとまち・あおもりは、2025年をもって、開港400年、そして、2026年には、まちづくり400年の大きな節目を迎えました